

# 大 学 史 研 究 通 信

第 95 号 2019 年 2 月 15 日 (木)

大学史研究会

第 95 号の内容：会員ニュース・新入会員自己紹介・2018 年度大学史研究セミナー報告・2018 年度総会報告・2018 年度会計報告・『大学史研究』編集委員会からのお知らせ・会員新刊ニュース・寄贈図書・事務局からのお知らせ・編集後記・大学史研究会事務局員一覧

## 会員ニュース

### 新入会員＜申込順＞

米澤 晋彦 会員 (所属：秋田工業高等専門学校)

長野 公則 会員 (所属：国際公認投資アナリスト (CIIA))

## 新入会員自己紹介

### 米澤晋彦 会員

このたび入会いたしました米澤晋彦 (よねざわくにひこ) と申します。専門は科学史、技術史、技術論です。最近では財団法人斎藤報恩会による学術研究助成がいかなるものであったのか、東北帝国大学を中心に研究しています。その研究の過程で、帝国大学の研究者たちの教育研究思想についても関心を持つようになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

### 長野公則 会員

この度入会させていただきました長野公則と申します (東京大学大学院経営政策コース博士課程修了)。アメリカ大学史、リベラル教育史、日米大学財務を研究しております。よろしくお願いいたします。

### ＜異動に伴う会員情報更新の届出をお願いいたします＞

所属や住所等に変更のある会員は、事務局までご一報ください。ホームページ掲載の「事務局連絡先」フォーム、あるいは年会費払込票 (郵便口座) の「通信欄」を利用することも可能です。

また、今後は会員の皆様への連絡を、「通信」と併せてメールで配信していくことも検討しております。事務局へのご登録が旧アドレスのままの方や、メールアドレスの登録をされていない方はご連絡いただきますよう、ご協力をお願いいたします。

(会員情報担当：浅沼薫奈)

## 2018 年度大学史研究セミナー報告

2018 年 11 月 17 日 (土)、18 日 (日)、國學院大學渋谷キャンパスにおいて、第 41 回大学史研究セミナーを開催いたしました。当日の参加者は、2 日合わせて 60 名でした。出席されたみなさまには、厚くお礼申し上げます。

1 日目は、シンポジウム「大学史・高等教育史研究のこれまでとこれから」をおこないました。戸村理氏から「趣旨説明および大学史・高等教育史研究の量的動向」、羽田貴史氏から「日本における大学史・高等教育史のレビュー」、安原義仁氏から「比較大学史からの検討と提言」、岡本拓司氏から「科学史研究からの検討」をご報告いただきました。

特に、このシンポジウムは戸村氏の強い問題関心によって実現したもので、個別細分化への問題意識が他の報告者にも共通してみられました。多くの論点に質疑応答がなされましたが、セミナー担当の個人的な感想としては、この個別細分化自体はあまり議論されなかったと思います。これまで影響力をもってきた日本の大学史研究・高等教育史研究の理論が紹介されましたが、たとえば日本史研究という分

野で研究している人たちには、それほど必読の研究として受け止められていないようです。大学史・高等教育史研究をターゲットに研究することにとどまらず、より広い分野と共有できる論点を重視することが必要でしょう。

そのために、今回のシンポジウムでもいくつか重要な指摘があったと思います。たとえば、「学問の自由」概念とはデモクラシーのあり方を考察することと密接不可分です。いうまでもなく、デモクラシーのあり方を考察することは、分野を超えて、少々社会状況が変化したとしても意義を喪失しない耐久性ある課題といえるでしょう。あるいは、「科学」「1960年代論」といったものも、デモクラシーや文明といった主題と関連します。大学史研究・高等教育史研究を超えて、多くの分野の研究者の興味を引くテーマです。このような広がりある問題を念頭にして、他の分野の研究者も無視できないような研究成果をこちら側から発信することができないだろうか、自身の非力を棚に上げつつ拝聴していました。

2日目の自由研究発表では、4名の方から発表がありました。松浦正博氏から「中世パリ大学の形成と学芸学部（*Facultas Artium*）をめぐる」、潮木守一氏から「コミュニケーション革命の大学へのインパクト—19世紀初頭と現代」、金城正英氏から「戦後沖縄初の私立高等教育機関の設置」、立川明氏から「リンカンの目線からみた共和国大学—ランドグラント・カレッジ再考」という報告がおこなわれました。いずれも箇々の発表者の個性が発揮され、質疑応答も含めて活気あるセミナーとなりました。

末筆となりましたが、今回のセミナーでは先述したシンポジウムの企画に加えて、会場の提供と設営など戸村氏には全面的にお世話いただきました。あらためて感謝申し上げます。続いて「開催校からのお礼」、「セミナー参加記」をお届けいたします。

（事務局セミナー担当：船勢 肇）

## 開催校からの御礼

戸村 理（國學院大學）

2018年11月17日、18日に國學院大學（渋谷キャンパス）にて開催されました第41回大学史研究セミナーにご参加いただきありがとうございますございました。開催校として心よりお礼申し上げます。当日は学内にて多数のイベントが開催されておりました。そのため必ずしも十分な運営ができずご迷惑をおかけしてしまったかと思っております。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

セミナー内容については、事務局のご担当の方がお寄せくださる報告に預けたいと思っておりますが、初日はシンポジウム「大学史・高等教育史研究のこれまでとこれから」、そして二日目は自由研究発表並びに来日中のロジャー・ガイガー先生による特別講演会と、盛り沢山のセミナーであったと思っております。二日間を通して60名の参加があり、開催校としては喜んでいいのではないかと「密かに」思っております。もちろん私がそう思えるのも皆様のご参加があつてのことです。改めて御礼を申し上げますと共に、とくにシンポジウムでご発表頂いた羽田貴史先生、安原義仁先生、岡本拓司先生、自由研究発表でご発表頂いた4人の先生方、そしてご講演頂いたロジャー・ガイガー先生には重ねて御礼申し上げます。

最後になりますが今回はじめて開催校を担当させていただき、学会ではない「研究会」の体裁であるとはいえ、企画から運営に至るまでセミナーの運営も「いろいろとあるものだな」と感じました。もちろん私の準備不足や生来の怠惰な気質によるところが大きいのですが、小さい部分ではその他の要因もあるように思います。こうした点は事務局の方にお伝えするなどして、次年度以降のセミナー運営に少しでも寄与することができたらと考えております。

## セミナー参加記

米澤晋彦（秋田工業高等専門学校）

11月17日（土）、18日（日）に國學院大學において開催された第41回大学史研究会セミナーに参加した。11月に入会したばかりで、セミナーに参加するのは今回が初めてであった。

研究者の教育研究思想及び財団法人による学術研究助成について現在研究をしている筆者は、岡本拓司氏の発表を楽しみにしていた。岡本氏の発表内容は期待を上回るものであった。日露戦争で戦死した最初の学徒出身兵である市川紀元二についての論考は、恥ずかしながら殆ど知識を持ち合わせていなかったもので、大きな収穫であった。

最も印象深かったのは、ペンシルバニア州立大学名誉卓越教授ロジャー・ガイガー先生の講演であった。わかりやすい英語で語りかけるかのように、1950年から1975年にかけてのアメリカ高等教育の拡大期について解説して下さった。質疑応答も活発に行われていた。アメリカの高等教育史に詳しくない筆者にとって、殆ど全てが新鮮で新しいものであった。他の発表でもそうであったが、和やかな雰囲気の中で、発表者とフロアーの距離の近さを感じる講演であった。

都合によりすべての発表を拝聴することは出来なかったが、筆者にとっては研究に対しての新たな知見や視座を得ることができた貴重な体験となった。末筆ながら、会場を提供して下さった國學院大学、セミナーを企画・運営して下さった事務局の方々、そして発表者の方々に、この場を借りて厚く御礼を申し上げたい。

堀 佑二 (獨協大学)

第41回大学史研究会セミナーは、2018年11月17日、18日の2日間にわたり國學院大学渋谷キャンパスを会場として開催されました。筆者にとっては、明治大学で開催された第39回セミナー以来の2回目の参加でした。

1日目のシンポジウムでは、「大学史・高等教育史研究のこれまでとこれから」と題し、まず戸村理氏から高等教育の動向を踏まえつつ今回のシンポジウムの趣旨説明があり、次いで羽田貴史氏から「大学史研究会と大学史研究：日本を対象に半世紀で明らかになったことと多すぎる課題」、安原義仁氏から「比較大学史からの検討と提言」、岡本拓司氏から「科学史研究と大学史の新たな交流の可能性」という報告があり、その後は全体討論へと移っていきました。大学史研究会が設立50年を迎えるにあたって、過去をふりかえりつつ、多様な分野の集まりで形成された発足当初のよき伝統を、再び取り戻そうとするための試みがシンポジウムを通じて感じられました。

2日目の自由研究発表では、松浦正博氏から「パリ大学の形成と学芸学部をめぐって—その自律的法人化の過程—」、潮木守一氏から「コミュニケーション革命の中の大学」、金城正英氏から「戦後沖縄初の私立高等教育機関設置について」、立川明氏から「リンカンの目線から見た共和国大学：ランドグラント・カレッジ再考」という発表がありました。米軍統治下の沖縄で、高等教育が本土とは違った独自の展開をしたという金城氏の発表は、日本の高等教育を一括りに考えていた筆者にとって感銘を受けたとともに視野の狭さを反省させられるものでした。

2日間を通じて、大学史の研究は発展し続けているものの、その成果が各機関に伝播していないことを感じました。大学史研究会に所属している教職員がいる場合には、各機関に成果を伝えることができるものの、いない場合には情報すら得られない状態です。修士論文のテーマとして大学史を選択し、そして所属機関の周年史を担当した筆者としては、羽田氏のレジюмеにあるような研究のまとめを、もっと早く知っていればというのが正直な感想です。大学史研究会が次の50年にむけて躍動していくことにより、大学史研究が発展し成果をあげ、各機関の周年史の充実そして社会貢献になるものと考えております。

## 2018年度総会報告

研究セミナー1日目に開催された総会につきまして、以下の通り報告いたします。

1. 2016年度の活動報告
  - 1.1 事業報告 深野事務局員より以下の通り報告があった。
    - ・2018年3月に事務局代表を岡田大士会員から深野に交代。事務局内業務分担についても順次、担当替えを行っている。
    - ・第40回大学史研究セミナー・・・2017年11月18-19日香川大学にて、参加者21名
    - ・大学史研究・・・第26号を刊行(2017年12月)
    - ・大学史研究通信・・・4号発行(No.91-No.94)
    - ・大学史勉強会・・・3回実施(いずれも中央大学後楽園キャンパスにて)
    - ・紀要編集委員会・・・4回開催(3月、7月、8月、10月)
  - 1.2 会員数報告 現在の会員数：114名(機関会員6を含む)  
昨年度の総会以降の増減：入会者数：9、退会者数：0
  - 1.3 決算報告 会計担当の山崎事務局員より決算報告が行われた。続いて、監査の井上美香子会員よ

り、2018年度も問題なく会計業務が執行されていることが報告された後、決算が承認された。

## 2. 2019年度の活動

- 2.1 会員名簿について、予定通り2019年度に発行することとなった。
- 2.2 研究会の学会への移行の提案があり、事務局で検討して報告することになった。
- 2.3 2018年度の予算について山崎事務局員より予算案が提案され、質疑応答があったのち、全会一致で承認された。
- 2.4 会計監査：井上美香子会員から吉野剛弘会員への交替が承認された。

(事務局代表：深野政之)

## **2018年度会計報告**

大学史研究会2018年度会計ならびに2019年度予算案につきまして、以下に概要をご報告します。

### **\* 2018年度の収支報告**

#### **【収入】**

2017年度会計からの繰越金は、5,616,815円でした。2018年度年会費につきましては80名の会員より納入いただき、年会費・入会金の納入総額は、615,000円でした。年会費の納付率は70%であり、例年より10%程度高くなっております。なお、昨年度も申し上げた通り、例年時期がずれて納付する会員が一定数おります。そのため、例えば2017年度の年会費支払い状況を見ますと、長期未納者を除くと80%近くとなり、多くの会員の皆様に適切に会費を納入して頂いていると言えるかと思えます。

年会費をお納め下さった会員各位におかれましては、この場を借りてお礼申し上げるとともに、今後も引き続き研究会の発展と円滑な運営のために、年会費納入に対するご理解ご協力をお願い申し上げます。

#### **【支出】**

2018年度の編集委員会会議費・交通費は31,890円です。通信費は95,942円であり、これは「大学史研究通信」発行の印刷、会員への諸連絡の印刷物、あるいは、年会費納入依頼通知の印刷等に関わる経費も含んでいます。2018年度は、紀要『大学史研究』も発行されたため、出版費として553,279円かかっています。「セミナー支出」は39,072円となっていますが、東京以外の場所での開催時は例年若干の支出超過となっています。

次年度繰越は、5,499,985円、来年度繰越金を除く総支出は731,869円でした。繰越金を除く収支の差は、116,830円のマイナスとなりました。

「2018年度会計報告」に明記されているとおり、当該年度の会計は井上美香子会員に監査を依頼し、精細な監査の上会計の適正処理をご承認いただきました。

### **\* 2019年度の予算案**

大学史研究会では、次年度の予算案につきましては、事務局による基本案を総会に提示し、ここでの審議を経て、最終決定をいたしております。例年と同様、2019年度予算も上記の手順にしたがって予算案を決定しましたので、以下にご報告します。

#### **【収入案】**

収入は、年会費と紀要売上金の2つになります。とりわけ、本研究会の運営経費は、年会費の納入に大きく依存しております。

年会費につきましては、前年度並みの600,000円を収入予定額として設定いたしました。その他の収入については過去に倣う形とし、総収入額は6,120,985円、繰越金を除く総収入額は621,000円といたしました。

## 【 支出案 】

支出案は、例年の予算案で設定している支出項目と支出額を考慮しつつ、算出いたしました。

『大学史研究』を発行する予定になっております。その発行経費（制作・印刷・発送費の総計）を600,000円計上しました。編集委員会会議費・交通費は50,000円、事務局会議・交通費は80,000円としました。その他の諸経費も、ほぼ例年通りの額を計上しております。消耗品費・手数料は10,000円、謝金は30,000円、通信印刷費は110,000円でこれはホームページの費用も含んでいます。また、予備費として500,000円を計上しております。

2019年度から次年度への繰越金は4,690,985円、繰越金をのぞく総支出予算案は1,430,000円を予定しております。予算上は大幅な支出超過となっておりますが、2018年度の会計報告においてお示しした通り、事務局の支出は例年最低限に抑えてられております。念のために予算化をしているという状況になっております。

本研究会におきましては、全体として緊縮財政をうたってはおりますものの、研究会として有益と認め得る支出につきましてはやぶさかではありません。大学史研究会の発展のため、あるいは、会員サービスのために必要な支出の要請がありました際には、事務局で検討し、それが妥当であると判断した場合には、これにお応えしていきたいと考えております。今後とも会員各位からのご提案ご教示を歓迎いたしますとともに、研究会の将来的なビジョンも併せてご検討いただければ、幸いに存じます。

以上、「2018年度会計報告」および「2019年度予算案」につきまして、ご質問ご提案等ございましたら、事務局までご連絡のほどよろしくお願い申し上げます。

（事務局会計担当：山崎慎一）



大学史研究会 2019年度 予算案

2019年度 予算案

収入の部		支出の部	
費目	金額	費目	金額
前年度繰越金	¥5,499,985	雑誌「大学史研究」関連費用	¥600,000
年会費・入会金	¥600,000	編集委員会会議費・交通費	¥50,000
「大学史研究」売上金等	¥10,000	事務局会議・交通費	¥80,000
セミナー開催経費等戻し入れ	¥10,000	消耗品費・手数料	¥10,000
利息	¥1,000	謝金(アルバイト)	¥30,000
		通信印刷費	¥110,000
		名簿作成費	¥50,000
		予備費	¥500,000
		次年度繰越金	¥4,690,985
計	¥6,120,985	計	¥6,120,985

前年度繰越金を除く総収入

¥621,000 次年度繰越金を除く総支出

¥1,430,000

上記のとおり、ご提案いたします。 大学史研究会事務局

『大学史研究』編集委員会からのお知らせ

『大学史研究』27号は、3月発行予定として編集作業を行っています。28号以降の投稿原稿につきましても随時、投稿を受け付けております。投稿を予定されている方は、お早めに（投稿前できるだけ早くに）紀要担当までご連絡ください。

（紀要担当：深野政之 fukano@daigakushi.jp）

会員新刊ニュース

吉野剛弘『近代日本における「受験」の成立』ミネルヴァ書房、2019年

寄贈図書

全国国立大学生涯学習系センター研究協議会『40年のあゆみ』2018年9月

「会員新刊ニュース」情報提供のお願い

本通信では、会員の研究活動の紹介を心がけております。新刊を発行されたご本人、あるいは会員が新刊を発行されたという情報を得られた方は、事務局メール（jshshe@daigakushi.jp）までご一報いただければ幸いです。

## 事務局からのお知らせ

11月の研究セミナーでは、戸村理会員に会場校担当として大変なご尽力をいただきました。あらためてお礼申し上げます。なお、総会報告にも記載しました通り、研究会の学会への移行の提案があり、事務局で検討することになっております。これまでの研究会組織の良い所を残しつつ、小規模ではあっても学会としての形式を整えていく作業が必要と考えております。ご助言等を賜れば幸いです。  
(事務局代表：深野政之)

## 編集後記

学生たちが卒業研究を提出しました。いよいよ卒業か、と考えるところですが、研究発表会と期末試験があるため、学生も教員も油断できません。迫る年度末に向けて気力と体力の充実を。  
(通信担当：山本尚史)

『大学史研究通信』第95号の編集は、事務局・山本尚史が担当いたしました。

連絡先：yamamoto.hisashi@nagasaki-joshi.ac.jp

『大学史研究通信』第96号は、2019年4月30日発行予定です。

### 大学史研究会事務局

<事務局連絡先>

〒591-8531 大阪府堺市中区学園町 1-1

大阪府立大学高等教育推進機構 深野政之気付 大学史研究会

Tel. & Fax.: 072-254-9548 E-mail: fukano@daigakushi.jp

ホームページ：http://daigakushi.jp/

事務局へのお問い合わせは、なるべく下記代表 E メールアドレスまでお願い致します

E-mail: jshshe@daigakushi.jp

### 大学史研究会事務局員 (五十音順)

浅沼 薫奈 (大東文化大学)

岡田 大士 (中央大学)

長谷部 圭彦 (早稲田大学)

深野 政之 (大阪府立大学)

船勢 肇 (大阪芸術大学)

山崎 慎一 (桜美林大学)

山本 尚史 (長崎女子短期大学)